2023年6月6日(火)

決算説明会

【2023年3月期決算説明】

証券コード:4531

有機合成薬品工業株式会社
YUKI GOSEI KOGYO CO., LTD.

説明内容

i. 会社概要

ii. 2022年3月期決算と市場の状況

iii. 20中期経営計画の総括（2020.4-2023.3）

iv. 23中期経営計画（新中計）について

会社概要

設立	1947年(昭和22年)11月4日
資本金	34億7千1百万円
事業所	
従業員	295名(2023年3月31日現在)
株式市場	東証スタンダード市場

- 本社　東京都中央区
- 東京研究所　東京都板橋区
- 常磐工場　福島県いわき市
- 大阪事務所　大阪府大阪市
- 欧州事務所　独デュッセルドルフ

企業理念

『わが社は
　内外のあらゆる技術を駆使して
　人の役に立ち人によろこばれるものを創る』

創業(1947年)以来、75年以上にわたり
社会に貢献する化学製品を提供しております

3つの事業分野

アミノ酸

化成品

医薬品

説明内容

i.　会社概要

ii. 2022年3月期決算と市場の状況

iii. 20中期経営計画の総括（2020. 4-2023. 3）

iv. 23中期経営計画（新中計）について

2022年3月期決算

	2022年3月期（百万円）	2023年3月期（百万円）	
	実績	実績	対前期比（%）
売上高	12,361	12,839	+3.9
アミノ酸関係	4,411	5,017	+13.7
化成品関係	3,143	3,396	+8.0
医薬品関係	4,806	4,425	▲7.9
営業利益	413	897	+116.8
経常利益	397	660	+66.1
当期純利益	248	556	+124.3
配当	4円/株	7円/株	+75.0
EBITDA	1,310	1,825	+39.3
EBITDAマージン	10.5%	14.2%	+135.2

2023年3月期決算のまとめ

営業利益は897百万円、昨年の2倍超
持続的成長のためアミノ酸事業への投資を実行
将来の売上拡大を見据えた投資とマーケティングにより、グローバルニッチのトップシェアを堅持

✓ 売上高対前年比　+3.9%
　好調なアミノ酸、化成品分野が牽引
　半導体、電池材料、抗がん剤向けの各製品が好調維持

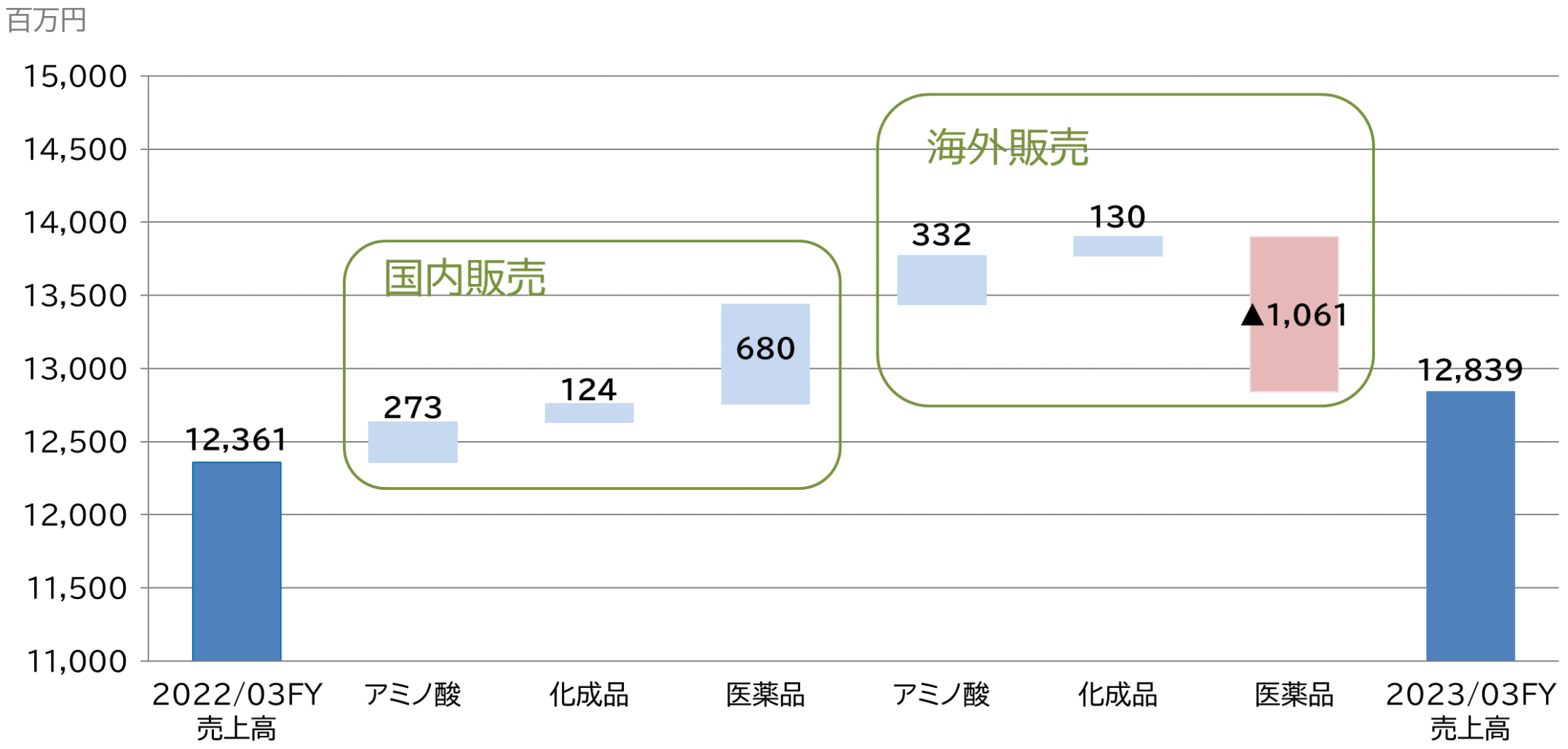
✓ 営業利益対前年比　+116.8%
　機動的な生産販売マネジメントにより効率的な生産活動を維持
　クオリティーカルチャー向上に伴う意識改革と中堅若手人材のスキルアップ
　による逸脱低減・評価減（ムダ）の減少

✓ ROA　4.1%を達成、対前年比　+2.1ポイント
　戦略的投資を計画的に実行し将来の成長性を確保、以て利益向上につなげる

✓ 各製品でグローバルニッチのトップシェアを維持
　パートナーとの協働によるマーケティング強化

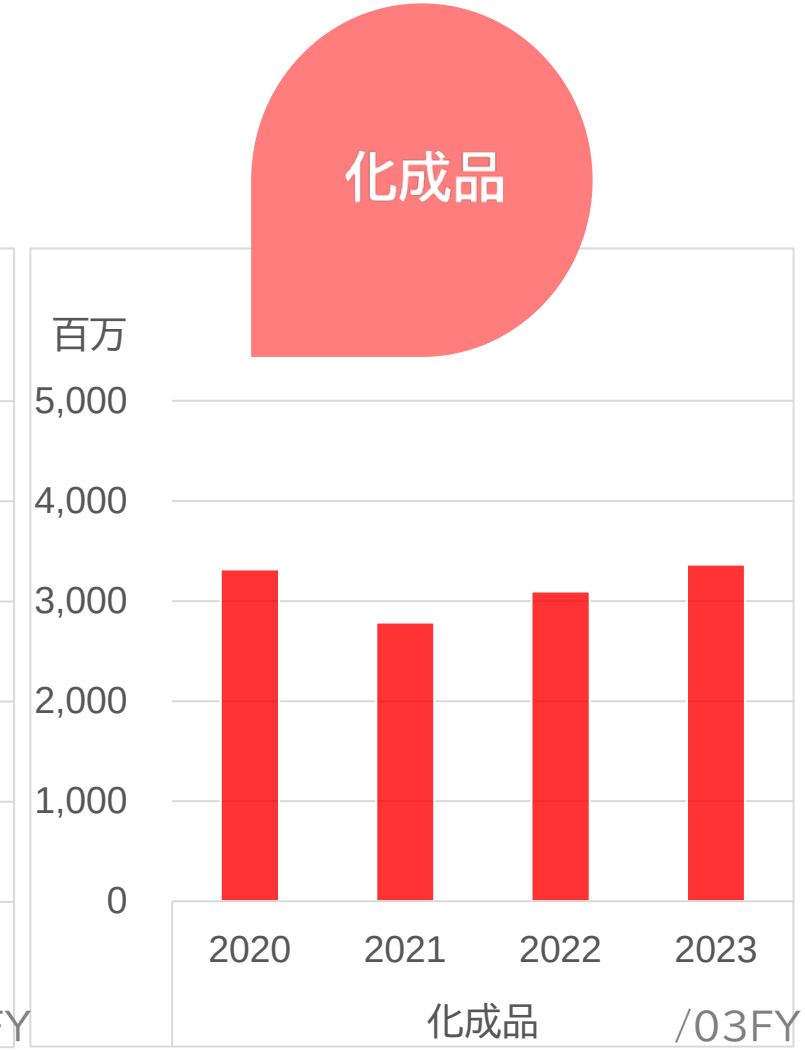
✓ 投資回収を見据えた健全な財務体質
　自己資本比率　51.9%

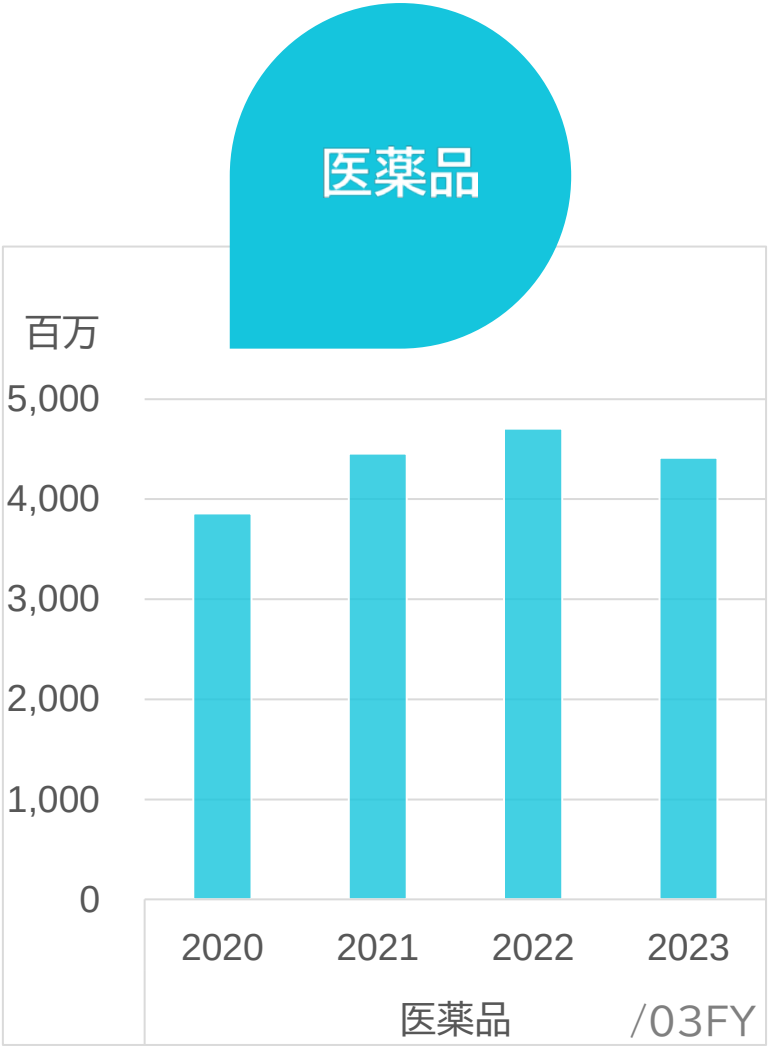
売上高分析(分野別、国内外別)



分野別売上高推移

アミノ酸
百万
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
2020
2021
2022
2023
アミノ酸
/03FY


化成品
百万
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
2020
2021
2022
2023
化成品
/03FY


医薬品
百万
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
2020
2021
2022
2023
医薬品
/03FY

分野別市場の推移、昨年度の総括

アミノ酸

医薬と半導体用途が伸長

グリシン、β-アラニンのアミノ酸事業の構造改革を実行中。グローバルマーケットでのトップシェア維持・拡大を図るべく、40億円超の投資を決定

医薬、半導体用アミノ酸の安定供給
アンチダンピング税率低減
アミノ酸の新機能開発
サプリメント販売開始

化成品

堅調な需要

農薬、特殊触媒、半導体向けの需要増加に対応。サプライチェーン戦略による安定供給により、お客様のグローバル戦略をサポート

電子材料向けの新製品を育成
堅調な船底塗料、自動車タイヤへのモノマー安定供給

医薬品

国内販売の伸長

クオリティーカルチャー戦略に基づき、ポートフォリオを充実させ、顧客のグローバル展開をサポート
CDMOビジネスの拡充へ

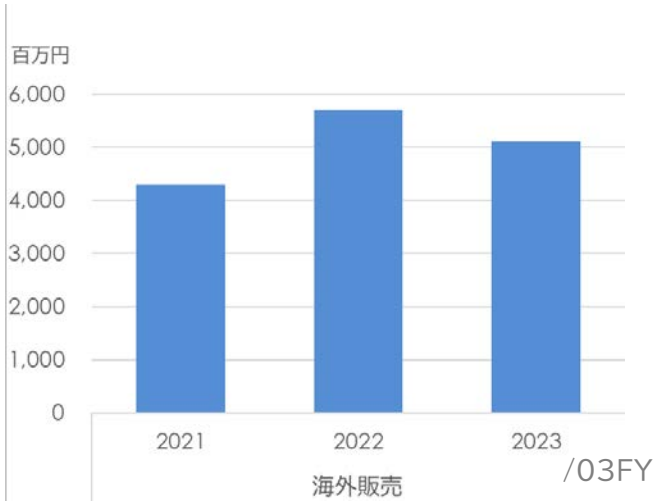
大型案件の在庫調整による販売減
国内ジェネリック市場への安定供給
新薬企業向けの長期収載品伸長
医薬中間体の増産体制の構築
グローバル原薬の安定供給

海外市場の推移、昨年度の総括

海外
売上高比率
39.8%

➢海外市況の変化

- ➢ 物価・金融
  - 経済活動の再開にウクライナ情勢が重なり物価高騰
  - エネルギーコストは落ち着きを見せたが、高値維持
  - 金融機関の破綻リスク、金融危機への警戒が必要
- ➢ 経済
  - コロナ後の経済活動の急な回復が見られたが、物価上昇と金融引き締めにより鈍化



➢化学産業のリスク要因

- ➢ ウクライナ情勢
  エネルギー供給不安による価格高騰（すでに欧州では回復傾向）
- ➢ 新興国リスク
  石化プラント増・・景気減速を背景に化学品市況が低迷
- ➢ 物流リスク
  北米リスク・・慢性的な港湾物流の鈍化

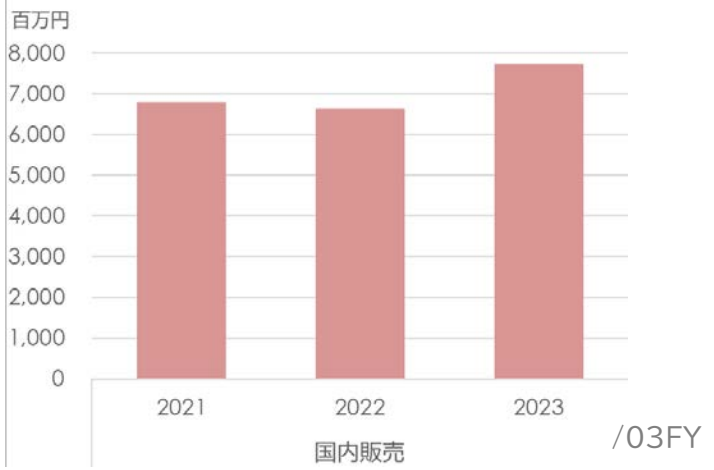
当社は分野別戦略の効果により新興国との競争の中で、
エネルギーを含む原料高を乗り越え収益改善した
足元の化学品市況の回復は早くても7月以降になる見込み

国内市場の推移、昨年度の総括

国内
売上高比率
60.2%

- 化学業界
  - 化学業界はグローバルの景気後退の影響受ける
  - 半導体材料は製品別に好不調が分かれる
  - 不況に強いヘルスケア
    ジェネリック原薬、長期収載品は堅調
    グローバル製薬企業への原薬供給も好調に推移
  - 原燃料の高騰により収益が圧迫されるが、
    ヘルスケア分野、船底塗料、特殊触媒、電池材料は好調を維持

- 変化への迅速な対応
  - 需要の急激な変化に迅速に対応し機会損失を防ぐ
  - 自動車、農薬、特殊触媒などの需要拡大に対応



説明内容

i.　会社概要

ii. 2022年3月期決算と市場の状況

iii. 20中期経営計画の総括（2020.4-2023.3）

iv. 23中期経営計画（新中計）について

中期経営計画の結果

中期経営計画と実績　（年度別、百万円）

	1年目(2020年度)		2年目(2021年度)		3年目(2022年度)	
	中計	実績	中計	実績	中計	実績
売上高	11,300	11,091	11,800	12,361	12,400	12,839
アミノ酸関係	4,605	3,838	5,015	4,411	5,100	5,017
化成品関係	2,665	2,788	2,685	3,143	2,900	3,396
医薬品関係	4,030	4,465	4,100	4,806	4,400	4,425
営業利益	250	218	370	413	430	897
経常利益	220	176	330	397	400	660
当期純利益	160	288	180	248	220	556
ROA	1.3%	1.0%	1.9%	2.0%	2.3%	4.1%
EBITDA	-	1,180	-	1,310	-	1,825
EBITDAマージン	-	10.6%	-	10.5%	-	14.2%
配当	-	3円/株	-	4円/株	-	7円/株

20中期経営計画の目標を達成

3か年連続で売上高、営業利益共に達成

持続的成長のためアミノ酸事業への投資を実行

将来の売上拡大を見据えた投資と、マーケティングによりグローバルニッチのトップシェアを堅持

- 20中期経営計画の重点施策の成果

I. クオリティーカルチャーの向上

逸脱低減による利益拡大

II. 働き方改革と人材育成

エンゲージメント戦略の深化、 基幹統合システムの更新

恒久的なテレワークの導入、成果主義による新人事給与制度

III. アミノ酸事業の再生・再構築

事業構造改革による売上高、利益の拡充

オープンイノベーション戦略を活用し新規用途開発

新規設備投資41億円の決定・着工

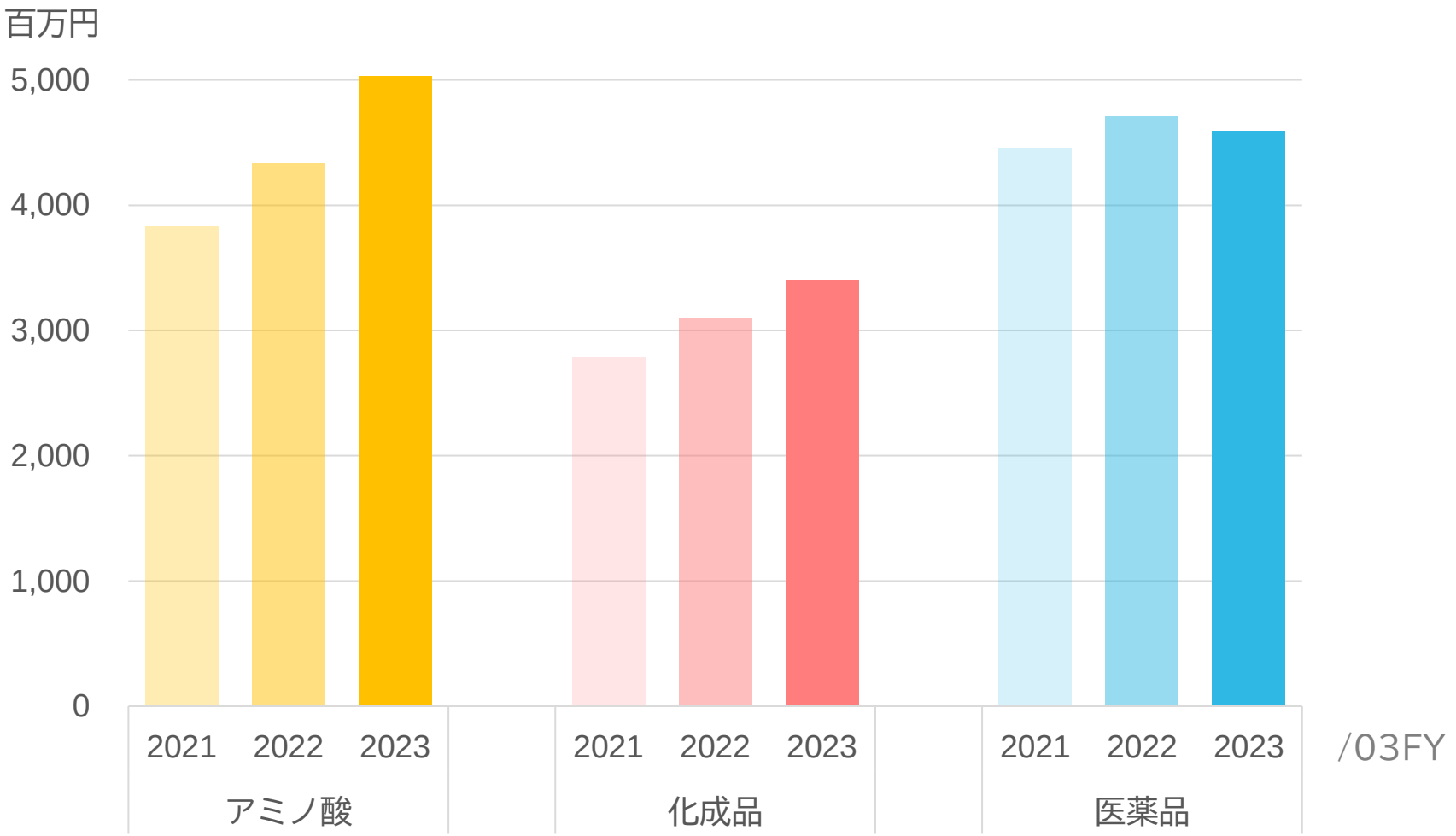
IV. 医薬品分野は新規設備の活用、新製品開発体制の拡充

中計初年度から好調を維持、更なるチャレンジへ

V. 化成品分野の基盤強化

キャッシュカウとして着実な収益と海外向け新製品の開発

分野別売上高　アミノ酸、化成品、医薬品



説明内容

i. 会社概要

ii. 2022年3月期決算と市場の状況

iii. 20中期経営計画の総括（2020.4-2023.3）

iv. 23中期経営計画（新中計）について

長期ビジョン

新中期経営計画の基本方針

『激変する経済環境の中、主要製品の売上を 拡大しながら、
新製品を継続的に導入し、以て向こう 10 年間の成長に資する礎を築く』

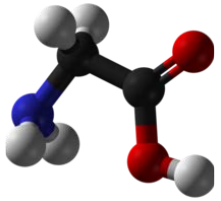
研究開発のキーワード
『持続可能な社会』

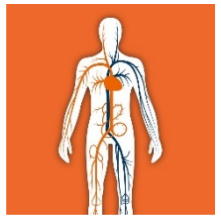
ヘルスケア領域 ・・・ 抗がん剤、化粧品、中分子医薬、抗体医薬
半導体 ・・・ 半導体素材、新技術サポート
環境配慮 ・・・ 脱炭素

新中期経営計画で挑戦する分野

アミノ酸分野

グリシン



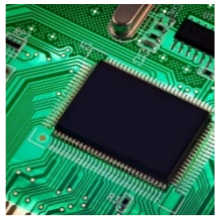


ベータアラニン

サプリメント

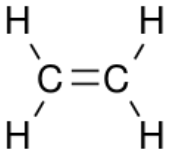
化成品分野

半導体素材
（モノマー）



農薬原料、船底塗料
（モノマー）

特殊触媒



医薬品分野

受託ビジネス
（CDMO）

核酸・抗体医薬

原薬

原料・中間体

生産設備の増強

医薬品分野の新規設備

38億円を投じて医薬品原薬、重要中間体の供給拡大

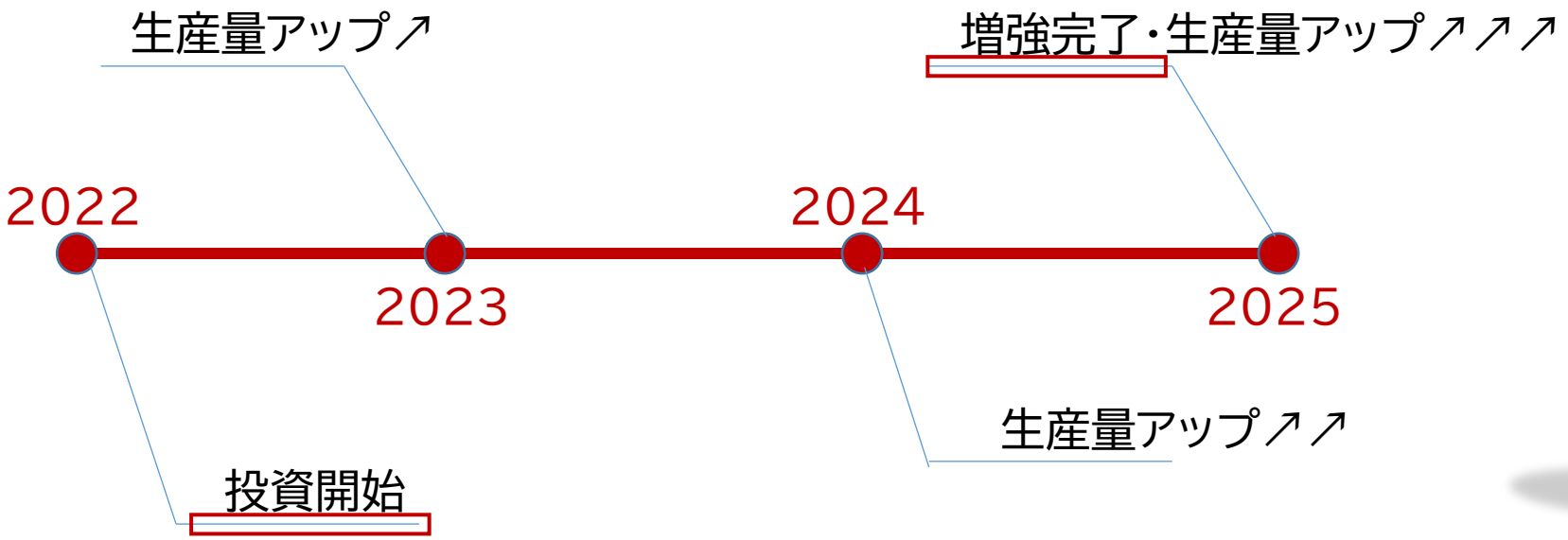
2018年稼働開始

廃水負荷低減可能な
熱媒システム採用

生産設備の増強計画

アミノ酸の生産能力拡大

40億円超を投じて医薬品分野、食品分野、半導体分野へ供給拡大
投資期間：2022年～2025年

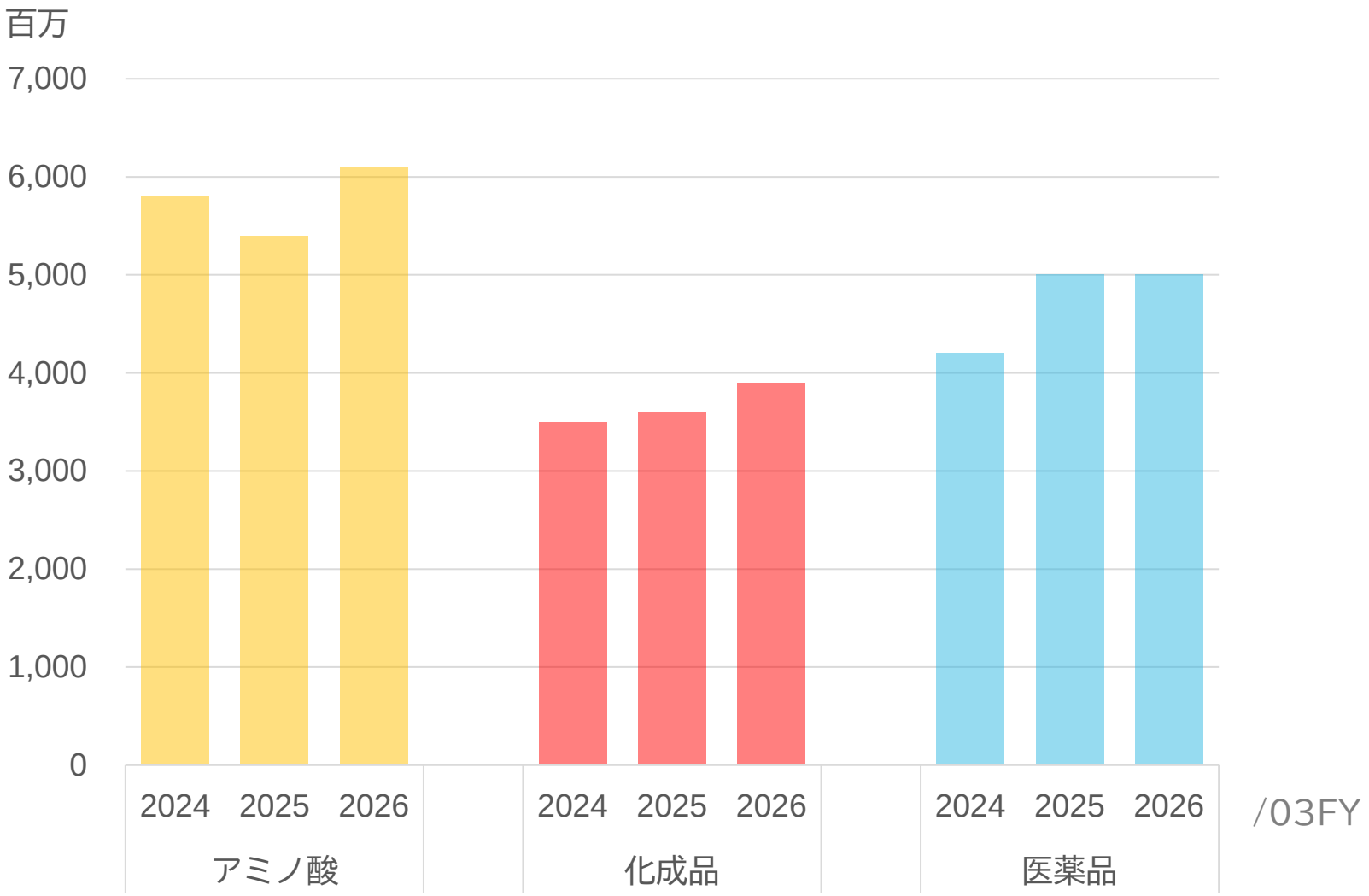


新中期経営計画

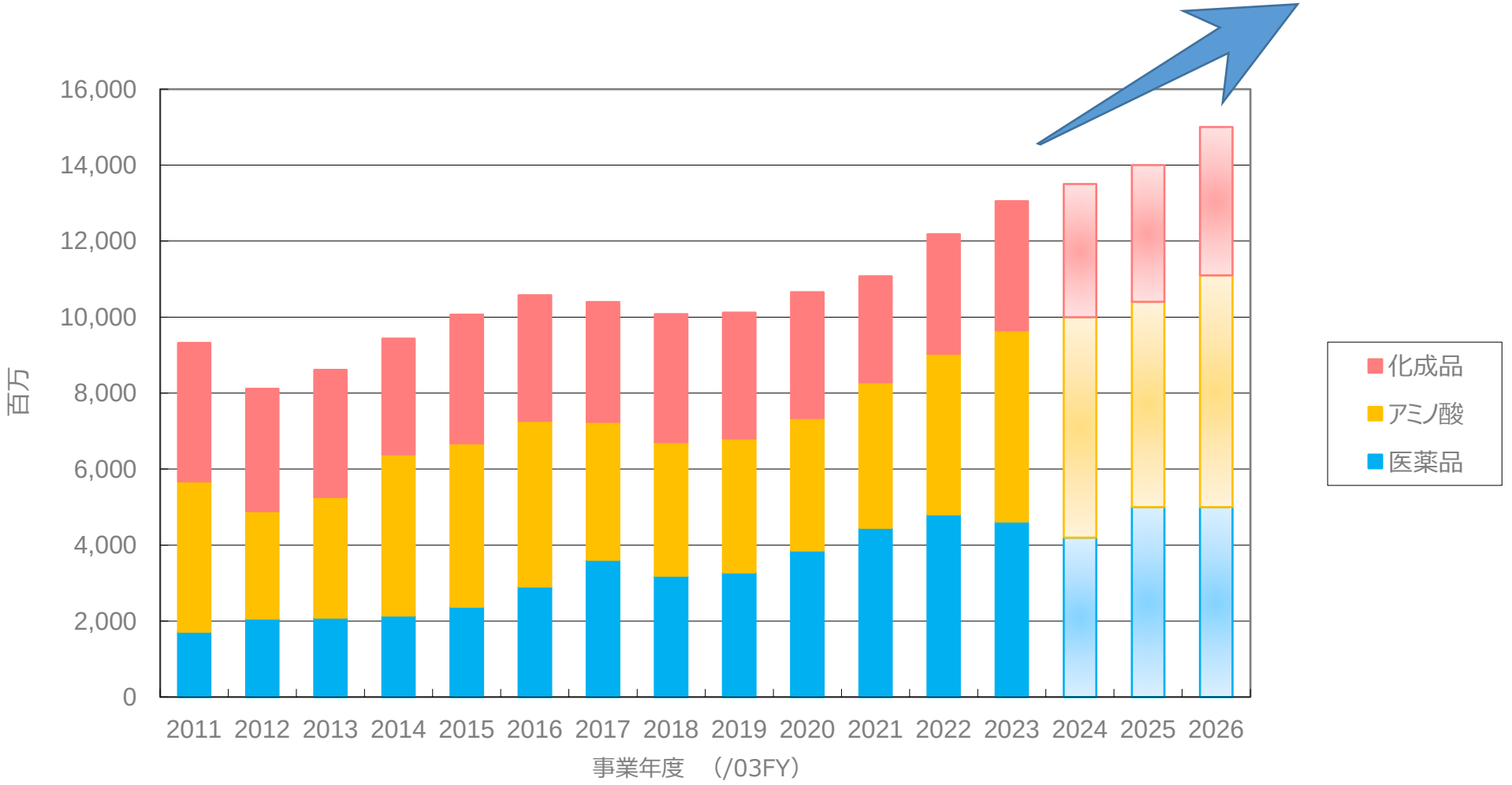
新中期経営計画（年度別、百万円）

	2023年度	2024年度	2025年度
	1年目	2年目	3年目
売上高	13,500	14,000	15,000
アミノ酸関係	5,800	5,400	6,100
化成品関係	3,500	3,600	3,900
医薬品関係	4,200	5,000	5,000
営業利益	840	1,000	850
経常利益	810	980	830
当期純利益	600	740	620
ROA	4.2%	4.5%	4.2%
EBITDA	1,831	2,205	2,321
EBITDAマージン	13.5%	15.7%	15.4%

分野別売上高計画


百万
7,000
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
2024
2025
2026
アミノ酸
化成品
医薬品
/03FY

新中期経営計画を含めた業績トレンド



新中期経営計画のゴールと将来の姿

アミノ酸の目標

アミノ酸（グリシン、βアラニン）のトップシェア維持拡大

化成品分野の目標

ニッチ領域における原料供給のリーディングカンパニー
（IT・半導体、船底塗料、特殊触媒）

医薬品分野の目標

グローバル市場へ医薬品原料を届ける先端CDMO

新中期経営計画、重点施策について

営業利益は7%目標
持続的成長のためアミノ酸事業への投資を実行
将来の売上拡大を見据えた投資と、マーケティングによりグローバルニッチのトップシェアを堅持

I. クオリティーカルチャーの醸成
クオリティーカルチャーの向上により、業務スピードを上げ
事業継続性を通じた社会貢献を実現する

II. 企業価値の向上
研究開発型企業として技術力を磨くと共に、社内における行動変革により
労働生産性を上げ、高収益体質を目指す

III. アミノ酸分野の事業構造改革
アミノ酸の事業構造改革を推進し、世界市場でのトップシェアを維持・拡大する

IV. 医薬品分野の受託ビジネス拡充
グローバル対応可能な原薬・中間体の優れた供給企業として、お客様からの
信頼を得ると共に受託件数を伸ばす

V. 化成品事業の拡大・再構築
新製品への挑戦と不採算品目の構造改革により、化成品分野を拡大・再構築する

海外販売の強化

FY2023

海外売上高
51億円
比率
40%

FY2024

海外売上高
65億円
比率
48%

FY2025

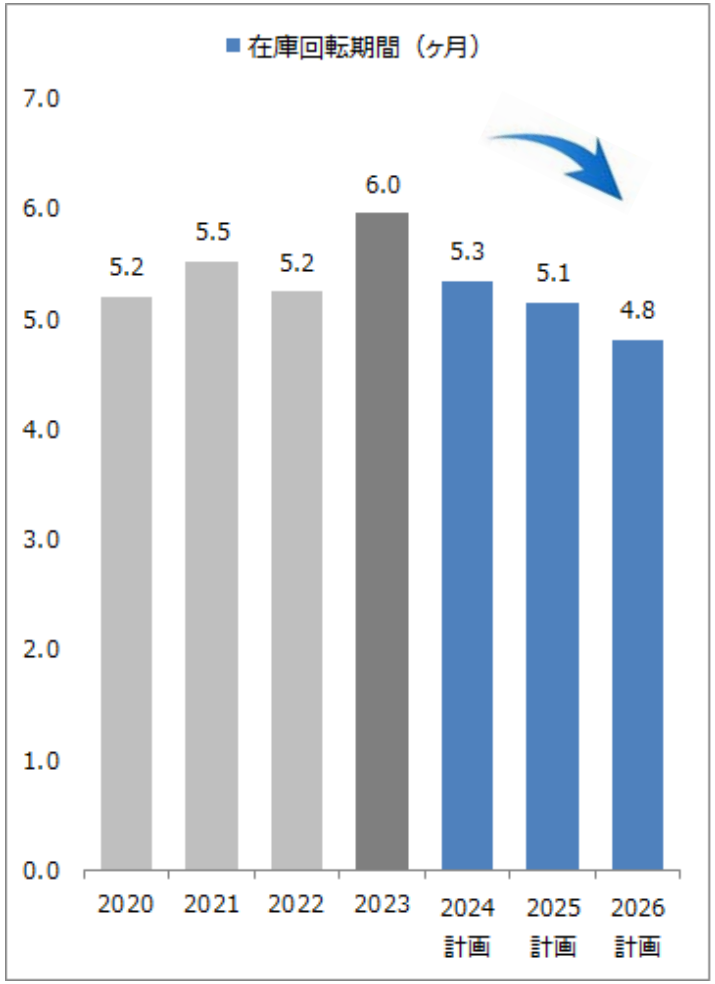
海外売上高
66億円
比率
47%

FY2026

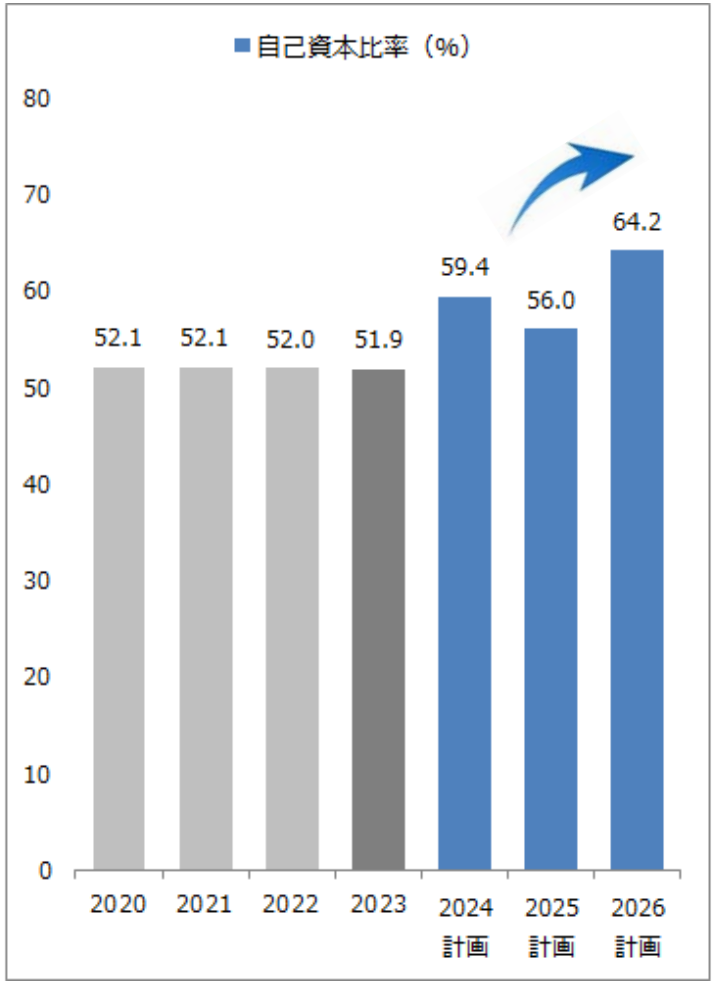
海外売上高
77億円
比率
51%

財務戦略と進捗

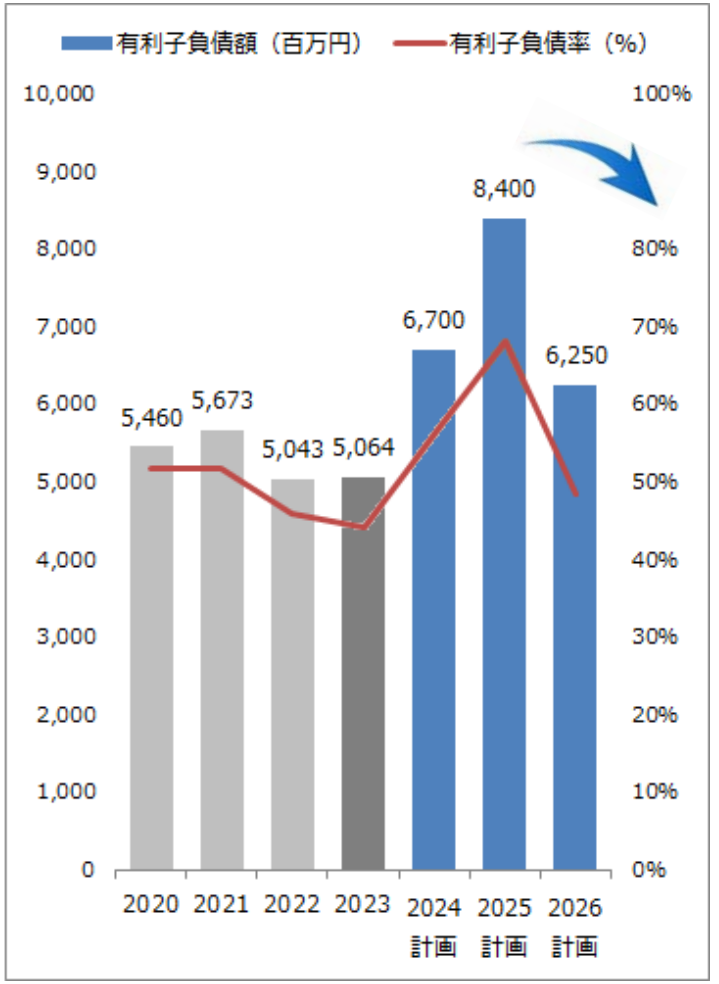
資産の効率化
キャッシュ創出力の強化



負債の圧縮・削減

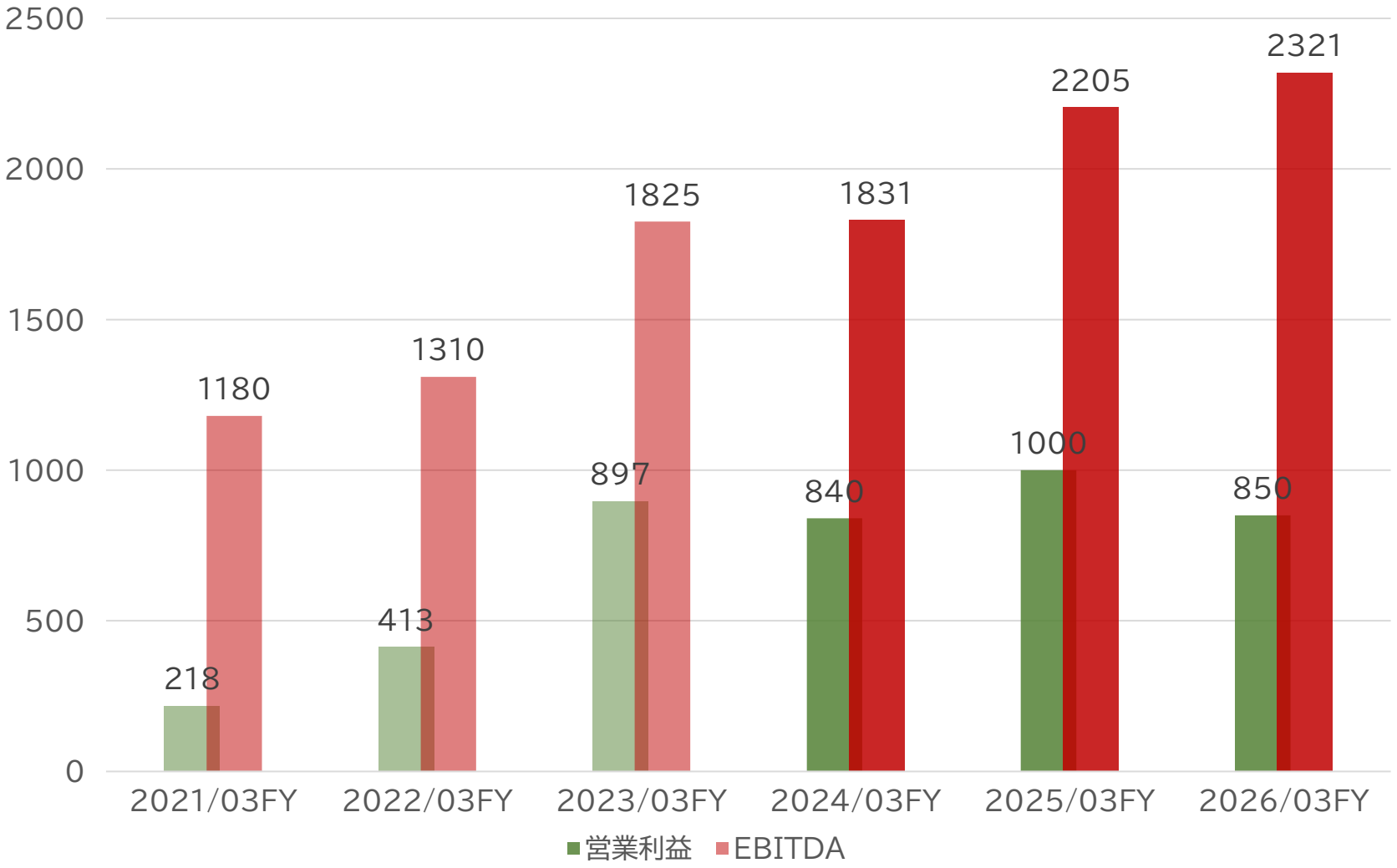


財務健全性の向上



収益力（キャッシュ創出力）の強化

営業利益率7%目標、EBITDA2倍（対2021年3月期）を目標



パートナーシップ（業務提携・協業）の継続・強化

ニプロ株式会社との業務提携

- ジェネリック医薬品の共同研究開発
- メイドインジャパンの原薬供給
- 原薬の安定確保

長瀬産業株式会社との業務提携

- アミノ酸事業を中心とした協業
  （市場調査、販売戦略、利益計画）
- 各マーケットニーズに合わせた用途開発

大鵬薬品工業株式会社との協業

- 同社が開発した抗悪性腫瘍剤「ロンサーフ®配合錠T15・T20」の有効成分「トリフルリジン」を提供
- グローバルでの需要増により両社で合意した供給計画に沿って増産

ESG経営の活動状況-1

LNGによる蒸気製造

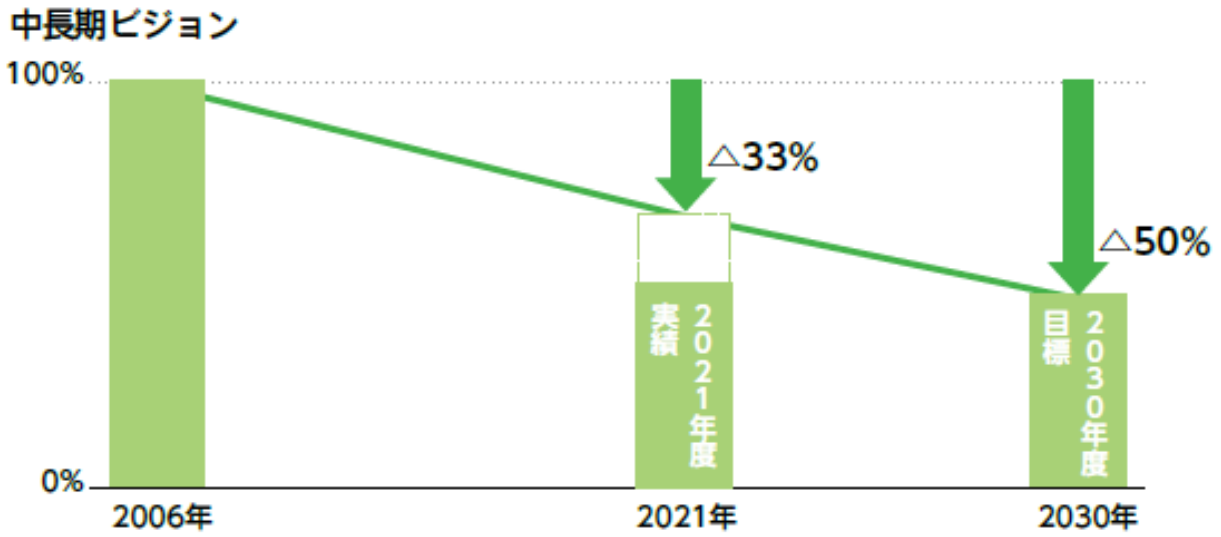
LNGによる自家発電

ESG経営の活動状況-2

最新の活性汚泥処理装置
（膜処理法廃水処理）

活性汚泥の活用（肥料として）

ESG経営の活動状況-3



2021年度の実績

	目標	2021年度実績	削減率
CO_2排出量	33%削減 (2006年度比)	19,446 t	38.5% 目標達成

ESG経営の活動状況-4

Ecovadis
サステナビリティレーティング 『シルバー』 を獲得
「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な資材調達」の
4つの調査項目で、上位25%となる『シルバー』と評価

CSRレポート発刊
URL : https://www.yuki-gosei.co.jp/environmental_policy/

エンゲージメントサーベイ

アミノ酸のトピックス
-開発したサプリメントをECサイトで発売-

商品ラインナップを拡大

ユーキテクノサービス（当社100％子会社）を通じて楽天市場で販売中
（https://www.rakuten.co.jp/yuki-technoservice/）

特許出願中： ミトコンドリアの活性化、サーチュイン遺伝子活性化、グリシン入りルイボスティーなど

新中期経営計画の重点施策

1. クオリティーカルチャーの醸成
2. 企業価値の向上
3. アミノ酸の事業構造改革
4. 医薬品分野の受託ビジネス拡充
5. 化成品事業の拡大・再構築

これらの施策により、当社は事業を通じて企業理念の実現を目指し、地域・社会に貢献していきます。

有機合成薬品工業株式会社
YUKI GOSEI KOGYO CO., LTD.

本資料につきましては、株主・投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、
完全性を保証するものではありません。

本資料は、株主・投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、株主・投資家の皆様ご自身のご判断と責任において
ご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。